

Q

緑と水辺の保全を

A

市民と協働で保全していく

宮崎 弘子 議員

質問一 大谷川及びその周辺の樹林地の現況及び自然環境を生かした今後の整備の見通しについて（藤金、五味ヶ谷、太田ヶ谷地区）。

二 逆木の池及びその周辺の今後の整備の見通しについて。

答弁一（市長） 藤金地区の大谷川沿いは屋敷林や裏山が緑地として帯状に続き、「つるがしま緑のまちづくり計画」で、給食センターから藤小学校周辺を保全すべき地区として位置付けている。また、NPO法人から、市と市民の協働でこの地域を保全すべく市民の森に指定したいとの提案があり、現在、土地所有者の方々に指定に向けた意向確認をしている。

五味ヶ谷地区についても多くのボランティアによって水辺環境が保全されている。市としても、水



市内を流れる大谷川

量の確保や護岸の修繕などその維持保全に努めてきた。

太田ヶ谷地区については、農業大学校周辺に雑木林や大谷川の源となる湧き水があり、「大谷川源流の会」などの市民とともに、大谷川上流部の保全に取り組む。

二 逆木の池とその周辺の水辺環境を生かし、地元の方など市民の意向を聞きながら公園整備をする。

◎**その他の質問** 藤縄市長のローカルマニフェストについて

それでも事業仕分けの実施を

先行導入自治体の意見を参考に

山中 基充 議員

質問一 「事業仕分け」についての考えは。

二 事業の必要性や意義、その効果の市民への周知は十分か。

三 構想日本を招いての「事業仕分け」の実施を。

答弁一（市長） 効率的で効果的な行政を築き上げていくことが極めて大切であり、市としても、今後、事業仕分け、あるいはそれに類する取り組みの実施の必要性を感じている。先行導入している自治体の意見も参考にしながら、実施方法などを検討していく。

二 市民のための市民の手によるまちづくりを推進するため、さま



ざまな機会を通じて情報の共有に努めるとともに、地域協働ポータルサイトなど新たな情報ツールも活用して、一方的な情報提供ではなく、市と市民双方での政策づくりが行えるよう、対話型行政運営をさらに推進していく。

三 構想日本を招いての事業仕分けを含め、効果と課題を検証した上で、先行導入自治体の意見も参考にしながら検討を進めていく。

◎**その他の質問**

一 審議会情報について

二 外部団体の情報の公開について

三 コミュニティバスについて